

令和元年度第6回国立市立学校給食センター運営審議会

令和2年2月19日

【向井会長】 それでは、定刻になりましたので、これより令和元年度第6回国立市立学校給食センター運営審議会を開始いたします。

本日は、お忙しい中、ご出席いただきまして、ありがとうございます。

では、本日の出欠席の状況ですが、市立学校給食主任代表の上野委員、市立学校食育リーダー代表の伊東委員、学校医代表の七条委員から欠席の連絡をいただいております。

それではまず、資料の確認をしたいと思います。事務局よりお願いいたします。

【事務局】 それでは、議事に先立ちまして資料の確認をお願いいたします。

事前に郵送いたしました運営審議会次第、資料1-1の令和元年度事業報告、資料1-2から1-4で、学校給食食材等の放射性物質の測定検査および産地について、資料2として、令和元年度学校給食費収支状況、資料3で、令和2年度事業計画となります。

最後に、席次表を、本日、机上に配付いたしております。

また、本日の朝日新聞と読売新聞に、昨日提供されましたイタリアンの学校給食が記事として出ておりましたので、それを急遽配付させていただいております。

過不足等、ございますでしょうか。ありがとうございます。

以上です。

【向井会長】 それでは、(1)の事業報告についてを議題とします。

事務局から報告をお願いします。

【事務局】 それでは、事業報告につきまして、ご説明いたします。資料番号1-1をごらんください。

まず、11月21日の第4回運営審議会から本日までの事業等の主なものについてご説明させていただきます。

11月27日に、第七小学校の1年生約40名が給食センターに社会科見学に訪れていただきました。

当日は、窓越しより調理場内を見学し、あわせて、給食センターの成り立ちや献立を作成する過程、給食センター職員の一日の業務内容等を説明し、質疑応答を行いました。

11月28日に、当運営審議会では慎重審議いただいた給食費の改定について、答申書を運

営審議会会長より教育長へ提出いたしました。

1 1月29日に、多摩地区学校給食共同調理場連絡協議会献立研究部会があきる野市で開催され、国立市から2名の栄養士が出席いたしました。

1 2月6日には、「学校給食食材等の放射性物質の測定検査および産地について（お知らせ）」を、全校配布の形で送付してございます。

これは、1 1月27日、外部機関による検査の結果、「乱切りさつま芋」（千葉県産）に微量の放射性物質が検出されました。給食食材としてご提供する前の検査ですので、学校給食食材として使用することはございませんでしたが、従前に倣い、保護者様宛ての文書を送付いたしましたのでございます。具体的な測定濃度につきましては、後ほどご説明いたします。

事業報告の続きですが、1 2月12日に、第三中学校の給食委員の生徒を対象に、「一般社団法人日本乳業協会」の管理栄養士を講師としてお招きし、牛乳定着促進のためのミルク教室を開催いたしました。

1 2月24日に、教育委員会定例会が開催され、運営審議会からの答申書を受けて、給食費について、来年度より改定することが正式に議決されました。

年が明けて、1月9日から給食を開始しております。

1月29日に、多摩地区学校給食共同調理場連絡協議会献立研究部会が立川市で開催され、国立市から4名の栄養士が出席いたしました。

昨日、2月18日には、昨年12月議会で継続審査となっております、「学校給食センター建て替えについて新たな検討内容に関する陳情」について、総務文教委員会が開催され、引き続き、継続審査中となっております。

また、同日に、初めての試みとして、一小保護者であり、著名なイタリアンシェフである方とのコラボにより、小中学校全校児童・生徒に向けて、イタリアン給食を提供いたしました。当日は、マスコミ数社からも取材を受けたところでございます。

以上、主なものについて、報告させていただきました。

続きまして、資料番号1-2から1-4でございますが、給食センターでの放射性物質の測定結果については、11月から1月までの給食実施日の、飲用牛乳、飲用牛乳を除いた小・中学校の提供給食を測定し、いずれも検出限界値にて不検出との結果となっております。

外部検査機関による放射能測定の結果につきましては、資料のとおりでございます。先ほど申し上げました、資料1-3の上段の表に「乱切りさつま芋」のセシウム137の濃度が

2.3ベクレルと記載されております。

過去再三申し上げており、大変恐縮ではございますが、農林水産省が設定する食品に関するセシウム137の基準値では、一般食品が100ベクレル、乳児用食品が50ベクレル、牛乳が50ベクレルなどとなっております。国立市では、品目によって、0.8から1.0ベクレルを下限値として、より精度を高くして測定しております。

したがって、今回計測されたセシウム137の濃度2.3ベクレルは、国において基準値未満の値が計測されておりますが、使用を中止いたし、産地変更をしたところでございます。

最後に、12月から2月使用分の給食物資の予定産地と地場野菜の使用予定日も同資料に記載してございます。

報告につきましては、以上でございます。

【向井会長】 報告が終わりました。ご質問やご意見がありましたら、お願いします。

よろしいでしょうか。特にないようなので、次に移ります。

それでは、(2)の学校給食費の収支状況についてを議題とします。

事務局から説明をお願いします。

【事務局】 それでは、平成31年4月1日から令和元年12月31日までの学校給食費収支状況につきまして、ご説明させていただきます。

お手元の資料2の1ページをごらんください。収入の欄でございますが、給食費は、調定額1億6,963万6,430円に対しまして、収入額が1億5,814万4,940円、未収入額が1,149万1,490円で、収納率といたしましては93.23%でございます。内訳でございますが、現年度給食費、令和元年度給食費につきましては、調定額が1億6,016万905円に対しまして、収入額1億5,757万6,210円、未収入額258万4,695円、収納率が98.39%でございます。過年度給食費、平成30年度以前の調定額につきましては、947万5,525円に対しまして、収入額は56万8,730円、未収入額は890万6,795円、収納率は6.00%でございます。

その下、前年度繰越金、雑入は、廃油売却収入等で、ごらんの金額となっております。ちなみに、雑入の内訳でございますが、6万1,486円のうち廃油代が6万1,380円、利息が106円でございます。

合計は、調定額1億7,636万8,610円、収入額1億6,487万7,120円、未収入額1,149万1,490円でございます。

下段の左側の支出でございます。主食購入代、副食購入代、牛乳購入代、調味料購入代と
なっております。合計額は1億5,487万3,691円でございます。

右側の表でございます。収入合計から支出合計を差し引いた12月31日現在の残高と
いたしましては、1,000万3,429円でございます。

続きまして、2ページをごらんいただきたいと思っております。2ページ以降につきましては、
1ページでご説明いたしました補足の詳細資料でございます。1ページで説明してござい
ます。現年度給食費の収入における調定額、収入額、未収入額等について、小学校分を月別に示
したもので、さらに喫食者数を添えたものでございます。小学校については、合計で、調定
額1億870万6,502円に対して、収入額が1億730万4,369円、未収入額が14
0万2,133円、支出額1億302万4,794円、喫食者数が延べ47万581人でござ
います。

3ページは、同様に、中学校における状況で、合計欄をごらんください。調定額5,14
5万4,403円に対して、収入額が5,027万1,841円、未収入額が118万2,56
2円、支出額が5,184万8,897円で、喫食者数は18万8,408人でございます。
最後の行は、小中学校の合計でございます。

続きまして、4ページでございます。物資の購入代金の支出に係る小学校における物資ご
との月別内訳をお示ししております。さらに、主食と副食につきましては、細かく分類した
ものでございます。小学校における物資代金合計は、1億302万4,794円となります。

続きまして、5ページでございます。同様に、中学校における物資代金の内訳を示して
おります。中学校における物資代金合計は5,184万8,897円で、小中合計では1億5,
487万3,691円でございます。

続きまして、6ページでございます。6ページは、1ページでご説明いたしました過年度
給食費の収入における調定額、収入額等の年度別内訳でございます。12月31日現在の収
入といたしましては、小学校分が30万7,719円、中学校分が26万1,011円、収納
率は6.00%でございます。

次のページにつきましては、2月12日に行っていただきました監査の報告書を添付し
ております。

学校給食費収支状況につきましては、以上でございます。

【向井会長】 説明が終わりました。ご質問等がある場合は、監査委員の監査報告を受け
てから伺います。

それでは、第一中学校の有馬委員と第三中学校の西村委員、よろしく願いいたします。

【西村委員】 それでは、監査報告をいたします。監査報告書をごらんください。

監査は、2月12日水曜日、午前10時ごろから、第一給食センター会議室で行いました。

監査の内容は、令和元年度2学期の学校給食費の収支書類と証拠書類を監査したもので、監査の結果は、ここにありますとおり、平成31年4月1日から令和元年12月31日までの学校給食費収支状況について、帳簿及び預金通帳等を照合した結果、適正に処理されていることを認めます。

令和2年2月19日、国立市立学校給食センター運営審議会。

【有馬委員】 監査員、有馬美奈子。

【西村委員】 監査員、西村朋美。

以上です。

【向井会長】 監査員には、大変お忙しい中、帳簿や関係書類について監査をしていただき、ありがとうございました。

それでは、ご質問やご意見がありましたら、お願いします。

特になければ、よろしいでしょうか。

それでは、次に移ります。(3)の令和2年度事業計画についてを議題をします。

事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】 それでは、令和2年度事業計画につきまして、ご説明いたします。資料番号3をごらんください。

令和2年度給食センター主要施策でございます。

大きな1番、食の安全安心の確保につきましては、これまでどおり、食材の調達は食品衛生法の諸規制に適合し、基本的に国内産、さらに食品添加物・遺伝子組換え、農薬の使用を控えたものを使用し、地場野菜の取り入れを推進いたします。

放射能への対応に関しましては、引き続き、提供給食の給食センターでの日次測定と検査機関での測定を行います。

さらに、調理における丁寧な洗浄を励行いたしまして、適切な栄養摂取をはじめ、給食ならではの献立に配慮いたします。

また、食物アレルギーや食中毒による事故を生じさせないよう、保護者様に対し、アレルギー物質の資料提供を行い、衛生管理の徹底を図ってまいります。

大きな2番目の食育の推進では、食に関する理解の促進のために献立メモの継続実施、ま

た、令和2年度においても可能な限り、出前授業の実施をしてまいります。

大きな3番目の円滑な運営管理の実施では、引き続き、給食費の徴収を徹底してまいります。

給食費会計につきましても、収支状況を見ながら適正な収支運営に努めてまいります。

また、各種委員会の円滑な運営に努め、衛生委員会活動を中心に安全管理の徹底に努めてまいります。

さらに、施設整備の維持、改善では、主なものとして、第2センター回転釜修繕などを考えてまいります。

また、新給食センター施設整備事業につきましては、教育委員会の施設担当部署の所管であるために、この文書には記載してございませんが、「新学校給食センター整備事業方針(案)」を踏まえ、事業方針を決定し、事業者選定プロセス等を実施する予定でございます。

令和2年度事業計画の説明については、以上でございます。

【向井会長】 説明が終わりました。ご質問やご意見がありましたら、お願いします。
久保委員、お願いします。

【久保委員】 よろしく願いいたします。七小の久保です。

大きな3番の円滑な運営管理の実施とあって、(1)給食費徴収事務とあるんですけども、小学校から中学校までずっと納めないという方はいますか。

【事務局】 今、給食費が、普通、例えば税ですと時効というものがあまして、税ですと5年で時効になるというのがあるんですが、今、国立市の給食費は10年で時効という形になりますので、逆に言うと、10年間分残っているという形になります。ということは、過去、10年前のものが残っているということは、推測ですけども、その先というか、その間も納めていない可能性が大きいのではなかろうかなと。

【久保委員】 すみません。ちなみに、結構残っているというか、配分というか、人数の割合的に結構多かったりするものなんですか。

【事務局】 たしか人数の割合は少ないはずです。今、詳細な数字は持っていないんですけども、わりと人数は少なかったようです。

ただ、人数で見るのではなくて、その月、いわゆる期別で見るので、期数になると、当然、10年間分たまりますので、すごい数になるんですが、おそらくいらっしゃる人数的には、たしか、ごくごく少なかったというような、今ちょっと正確な数字は持っていないんですが、少なかったと思っております。

【久保委員】 ありがとうございます。

【向井会長】 そのほかにありますでしょうか。

佐藤委員、お願いします。

【佐藤委員】 保健所の佐藤と申します。

1の(1)の最後のところです。「農薬等の細菌検査」というのは、多分、表現として変なので、農薬は細菌ではないので、修正されるといいかなと思いました。

【事務局】 「農薬等の細菌」は、確かに言葉が違うと思いますので、ここは恐縮でございます、修正させていただきます。ありがとうございます。

【向井会長】 ほかにありますでしょうか。

牛島委員、お願いします。

【牛島委員】 牛島です。

来年度の学校給食センターの建てかえについて、何月にどんなことをやるのか、どこまでやるのかということが具体的にわかっているようでしたら、教えてください。

【事務局】 今、はっきりと言えないと言ったらおかしいんですけども、実は、昨日も、この給食センターのための議会があって、陳情が12月議会に出されまして、1つ、今、PFIで進めていこうという話も事務局としては考えているんですが、そのPFIから調理部門を切り離して、調理部門だけ直営にして、考えを再構築してはどうかというふうな陳情が12月に出されているんですね。それで、この陳情を12月の段階で継続的に審査していくということで、採択、不採択という決はとりませんでした。

そして、昨日、また臨時に、その1つの議題だけで議会があったという形になります。そこでも、また継続審査という形になって、また3月に持ち越しという形になっています。

ですので、決まったということは言えないんですが、もし、それがPFIということで進んでいくという前提に立つならば、令和2年度には事業者選定作業を1年かけて入るという形になって、要求水準書とか、いろいろな仕様書もつくって行って、令和2年に決定して、令和5年度の2学期に建設も全て終わって供用開始というふうな青写真はつくっているところでございます。

以上です。

【牛島委員】 ということは、まだ議会で決まっていないから詳しいことは言えないんですけども、議会が決まれば、今年度の当初ぐらいに何か話がありましたよね。ですから、その流れで行くことになるということよろしいですか。

【事務局】 細かくいきますと、実は、事業方針を決定するというのは、議会が決定するのではなくて、教育委員会定例会で決定するという形になりますので、教育委員会の定例会が、例えばの話ですけれども、毎月あるわけであり、3月も開催されますが、そこで決定されれば、その方針は決定という形になります。

ただ、それには予算が伴いますので、予算は、あくまでも議会の判断が必要になるという部分がありますので、そういう部分では、議会の考え方も無視できないというところでの微妙な判断という形になるかと思えます。

【牛島委員】 いずれにしても、書けないかもしれないんですけども、新しい給食センターの設置に関する事は、事業方針として書いたほうがいいんじゃないかなと僕は思うんですけども、いかがですか。

【事務局】 実は、同様の書類を、教育委員会定例会にも事業計画として提出するつもりではおります。そこには、今、私がお話ししましたように、令和2年度には事業者の決定をしていくという内容が入っておりますが、新学校給食センターの事業について、あくまでも教育委員会の教育総務課の教育施設担当が所管してやっておりますので、給食センターのほうで所管している部分のみを、今回は掲載させていただいたという形になっております。

ですので、来週ですか、2月に教育委員会定例会があるんですが、そこには、事業計画の一番下のところに、事業方針を決定した後に事業者を決定していくという内容は載っております。

【牛島委員】 すみません。多分、これ、来月はないんですよね。

【事務局】 はい。6月になります。

【牛島委員】 6月ですよ。そうすると、もしかすると転勤しちゃう人もいるし、引き継ぎする人もいるし、それで、ここに何も書いていなくて、いきなり学校給食の新しい建物のことを何かするとかいう話になったときにうまく引き継ぎができないんじゃないかなと僕は思ったので、ここには何か入れておくべきんじゃないかなという提案です。

【事務局】 ありがとうございます。実はこれは従前に倣い、去年に倣い、つくったものでございまして、去年もその部分について書けるところはあったんですが、例えばPFI導入可能性調査で書けるところはあったんですが、それを、あえて去年も書いていなかったもので、ちょっと従前に倣った形になっております。おっしゃることは、当然、理解いたしますので、検討させていただければと思います。

【向井会長】 では、ほかにありますでしょうか。福山委員、お願いします。

【福山委員】 第一小学校、福山です。食物アレルギーへの対応ということに関してなんですが、具体的に学校で食物アレルギーが起きたときなどに対して、学校として研修というものは何か行っているのか教えていただきたいです。

【向井会長】 毎年とても早い時期に教職員研修をしております、マニュアルにのっとって研修をしております。対応の研修と、それから、4月の早い時期に救急法講習会がありまして、エピペンを打つ練習などを実際に行っております。

【福山委員】 ありがとうございます。

【向井会長】 ほかにありますでしょうか。井原委員、お願いします。

【井原委員】 二小の井原です。2番の食育の推進の(1)のところなんですけど、健康管理などを献立メモに書いて、給食の時間に献立係という係がいて、子供たちが読んでいるそうなんですけれども、それがどうやら手書きの紙という話なんですけど、私は実際の物を見ていなくて、息子が1年生で、漢字が含まれていて読むのに時間がかかり、食べるまでに結構時間がかかってしまうことをよく息子が言っていて、1年生から6年生まで、すらすら読めるように振り仮名等を振っていただけたら助かるなと思って、ご意見させていただきます。

【事務局】 山本です。献立メモについては漢字を使っていますが、1年生も読めるように全てに振り仮名を振っています。手書きだったのは以前の話で、現在はパソコンで打ったもので、カットを入れて、子供たちが興味を引くように絵も入れて、クラスに1部送っています。学校さんによってクラスでご活用いただいているところもあれば、放送で読んでくださっているところもあり、使い方は学校さんのほうにお任せしています。

【向井会長】 よろしいでしょうか。

【井原委員】 はい。以前の手書きのものについて話していたかと思います。ありがとうございます。

【向井会長】 ほかにありますでしょうか。特になければ、次に行ってよろしいでしょうか。

では、最後に(4)その他ですが、委員の皆様から何かありますでしょうか。

では、事務局のほうから何かありますでしょうか。

それでは、せっかくの機会ですので、去る1月22日に運営審議会の視察として、府中市学校給食センターを訪問したんですが、その際の給食事業全般にかかわることや調理委託をされていた小学校部分について、感想やご意見を皆様からお聞かせいただければと存じ

ます。学校の運審の委員の方々には全員視察されておりますので、一言ずつ感想などを述べていただければと思いますが、よろしいでしょうか。

では、第一小学校、福山委員からでよろしいですか。お願いします。

【福山委員】 福山です。初めに、国立のほうを見させていただいて、実は初めて見たので、驚いたというか、皆さんこういう中で一生懸命やっただいていただいているんだなという、働いている方たちが、申しわけないけれども、やっただいていただいているんだなとすごく感謝の気持ちを持った反面、府中のほうを見させていただいて、国立はがっかりしてしまったのありました。特に何がって言われるんですけど、府中市のほうで考えて工夫されていて、給食もすごくおいしかったので、もちろん国立の子供たちもおいしくいただいているんですが、先ほど一緒に話をしている、ご飯のお話をしている、ご飯を炊くのにもすごく苦労されていて、むらが出てしまうというところで、その辺もうちょっと改善できたらいいなと思いました。ありがとうございます。

【向井会長】 ありがとうございます。

【井原委員】 二小の井原です。国立市の給食センターを見せていただいて、給食に関する不満とかが時々あるんですが、帰ってきて、今日のご飯はちょっとかたかったとか、炊きにむらがあったとかいうのを聞くんですが、ここを見る前は何でと思っていたんですけども、現状を見て、しょうがないなど。給食をつくってくれている方は最善を尽くしてつくってくださっているんだなということをもっと改めて思ったので、新しいセンターになって、働く側も気持ちよく、不満なくお仕事ができる環境ができたかなと思っています。きのうの献立のメニューのように工夫もしてくださっているので、どんどんこういうのを続けていってつくってもらって、子供たちがもっと楽しく給食が食べられるような環境をつくってもらえたらかなと思っています。

【向井会長】 ありがとうございます。

【南委員】 三小の南です。私、思ったことが3点ありまして、1つ目が、配膳の業者さんが一緒という、同じ業者さんが担当されているので、コミュニケーションがとりやすいという話をされていたのがすごく印象が残っているので、どこもそうですけど、いろんな業者さんが入っちゃったりすると、コミュニケーションをとるのが大変だなと。逆に言うと、一緒のところは、そういうメリットもあるんだなというのはすごく感じました。

それから、半袖で働いている方たちが結構いたと聞いていて……、あ、すいません、逆だ。こっちが半袖で、暑くてというんですか、だから、そういう空調のところとかもここは断然

しっかりしていて、そうすると、ここで働きたい人がいっぱい入ってくるんじゃないかなという、労働環境としてもいいんじゃないかなというのと思いました。

あと、最後、戻ってきてからですけど、国立のセンターを見て、新しくなったときに、国立の給食センターに視察に来るような形の特徴を持ったセンターになればいいなということすごく思いました。このセンターだと、中国の方が1回来られたという話をしていたけれども、なかなかここを見学しに来ようとは思わないといったことを思いました。

以上です。

【神尾委員】 四小の神尾です。おっしゃられたこととかぶる内容にもなると思うんですが、国立のセンターを見学してから府中市のセンターを見学することはすごく意義があったなと思って、前にもお話した件で、長男はほとんど給食を食べないので、今、次男は全く普通に食べているんですけど、中学に入ってから給食をちょこちょこ食べられるものだけチョイスして食べているんですが、すごくおいしいと、こんなおいしいのを今まで食べられなかったのは何でだろうというぐらいのことを言っていて、こんな環境でつくっていたんだというギャップがすごく、かえって、よくやったださってありがたいという気持ちのほうが、ありがたい環境よりそっちのほうをすごく考えるようになってしまって、なので、新しいセンターになったときに、この環境でこれだけいろいろ郷土料理だとか、普通お家で作らないようなメニューなんかも、私、かわりのものをつくるので、ネットで調べて、こんな聞いたことがない、治部煮とかいう響きのやつとかも工夫して何とかやっているところが、今働いている方のありがたいところというのをすごく感じたところです。

府中市はお金があるというか、潤っている市なので、それなりに、アトラクションのようで楽しいなと。給食が身近に感じられるような建物で、新しくなったときは、同じく見学に来られるような施設になれば私もいいなと感じました。

以上です。

【村上委員】 五小の村上です。私も今まで意見を言ってこられた方たちのように、実際見てみて、国立市の給食センターの方たちに感謝の気持ちが一番湧いてきたかなと思います。でも、そういう感謝の気持ちというの踏まえて、自分が1年間、周期的に見て行って、前回見てわかったことがたくさんあり過ぎて、見なかったからわからなかったこと、何を議論されているのかわからなかったことがたくさんありました。動線をこうするというのがいかに重要なのかとか、空調のこととかも、いろいろほんとうに細かいことですけど、なので、もし給食審議委員になって初めに見ていたら、もっと違った議論が、否定的にならず

にできたのではないかなと思ったのが1点です。

あと、今後も給食センターでこれからつくっていく過程で反対意見とかいった要望が一般の方から出てきたりとか、要望書が上がってきたりとか、強い意見もあるかと思うんですけど、そういう方たちにもぜひいいところを見てもらう機会をつくると、すごく理解してもらえるんじゃないかなと思いました。

【向井会長】 ありがとうございます。

【伊藤委員】 六小、伊藤です。ほとんどみんなしゃべられちゃったんですけど、私としては、好き嫌いが多すぎる息子なので、とにかく給食だけは全て食べると。この環境の中で全てつくって、息子が食べてくれることだけでもすごく感謝しています。

あと、比べちゃうと何でなんだというところ、反対している方たちは何で反対しているのかというところの意見を聞きたいなというところで、もうちょっと話し合いをするべきなのかどうかというのを感じたんですけど、私としては、新しい給食センターが一日も早く、アレルギーの子たちもだんだん多くなってきているので、国立市オリジナルの充実した環境で給食を提供できればいいんじゃないかなと思いました。

以上です。

【向井会長】 ありがとうございます。

【久保委員】 七小の久保です。最初に国立市の給食センターを拝見させていただいて、手前のダクトにほこりが積もっているし、実際に調理場を撮影したいんですけど、手前にダクトがあるがために奥は撮影できないし、向こうの右奥のほうでは食器を倒したりとかして、何かすごく混沌としたカオスですよね。その中で50年、食中毒も出さずに国立市の子どもたちを大きく育ててくださって、ほんとうに従事していらっしゃる皆様には感謝の気持ちでいっぱいでした。

府中は非常にきれいでして、ウェットじゃなくドライということもあって、服装も非常に軽いというか、靴も普通デッキシューズですし、エプロンもあれですし、かつ天井のダクトとかもきれいなのは建ったばかりなので当然なんですけど、そういう混沌とした状態が一切ないです。システムチックに、汚染されたというか、洗浄していないものがまざることもしなくて、運ばれて出ていって、児童の口にちゃんと入るのが一本化されてできているのは非常にいいなと思いますし、これはPFIにしてできる、例えば調理部門を切り離す話もあると思うんですけど、PFIに切りかえたときは、多分、調理部門が一番得意な分野に入ってくるとは思うので、ここを切り離して民間に委託することのメリットというのはすごく

く変わってきちゃうと思うから、そこは今後も議論の余地があると思いました。また、当面はアレルギーの除去食で、安全を考慮すると除去という形が一番いいんですけど、代替食が提供できれば一番なのかなと思って、もし国立市がこれだけの、悪いという言葉が悪いんですけど、そんなによろしくない環境の中で、これだけ皆さん頑張ってくださいっていることを考えると、代替食も可能なのではないかなという希望もありつつという感じでした。その話は七小のPTAとかにも相談しまして、いろんなご意見を下さいという形で言わせていただいたりしているんですけど、今のはほんとうに古いから、もうちょっと早く建てかえてほしいよねという意見は出ていたりはしています。

以上です。ありがとうございます。

【内田委員】 八小の内田です。とてもきれいな施設で、見学もしやすく、国立市の新センターにも子供たちが楽しく見学できるように色分けをしたりなど取り入れてほしいなと思うところがたくさんありました。

あと、できるかわからないんですけども、調理実習室があったりして、食育にもつながると思うので、そういうイベントができたりとか、たくさん活用できるようになればいいなと思います。

以上です。

【有馬委員】 一中の有馬です。府中市の学校給食センターはほんとうにきれいで、すばらしくて、試食もとてもおいしくて、規模がすごく大きいですよ。1日2万2,000食まで提供可能ということで、こんな給食センターを見てしまったら、日本一と言われるのがほんとうによくわかりました。

国立はこれからもオンリーワンの給食センターを目指してほしいなと思って、今でも中学校は小学校の給食と献立が違うんですよ。中学校の給食は、小学校にもあるのかな、リクエストとか、うちは中3で、もうすぐ卒業で、「給食を食べられるのは、一生のうちにあと何食かな」とかって言いながら、最近食べています。もうすぐ終わりだから、リクエスト給食とか、今までみんながおいしかったというのをまた出してくれたりとか、よくしてくださっていて、ほんとうにすごく愛情を感じます。2学期のときは中学校は合唱コンクールがあるんですけども、合唱コンクールの時期になると、ト音記号パンが出たりとか、学校の行事に合わせてくださっていることもすごくありがたいなと、保護者としてもほんとうに愛情を感じていまして、新しい給食センターになっても、そういったこともぜひ続けていただけたらうれしいなと思います。

以上です。

【西村委員】 三中の西村です。府中市のほうに行かせていただいて、ほんとうにすばらしい給食センターだったと思うんですけれども、ご飯がすごくおいしかったです。そういうところはまねできたらいいなという希望はあるんですけれども、皆さん新しい給食センターができるのをすごく心待ちにされていると思うんですけれど、この場所でこの給食センターがあって、市役所とかも近くにあって、通るたびにここでご飯がつくられているのが見えるというのもすごくメリットだったんじゃないかなと思うと、私は新しい給食センターを心待ちにする気持ちはあるんですけれど、でも、ここじゃなくなってしまうという寂しさもあるんだなと思いながら、よそはよそ、うちはうちのよさを今後も継承して、国立市の子供たちにおいしい給食を届けていっていただきたいなと思いました。

【山崎副会長】 二中の山崎です。お願いします。私は今年初めて給食審議会の委員になったのですが、書面では新しい給食センターができますよとか、一般の主婦として、保護者として書面で見ていただけだったので、審議会に入って、ドライシステムが何だとか、PFIが何だとかありまして、ほとんどよくわからず、ふーんという感じだったんですけれど、実際、府中の給食センターを見て、ドライシステムはこういうシステムなんだ、PFIというのは、一方通行で、こういうふうに危険はないんだよというのを改めて実感して、こういうことなんだというのがわかったので、一般の保護者の方にも古い給食センターと、新しい給食センターの違いを実際に見てもらえれば、きっとわかるんじゃないかなと。文章だけではわからないことがあるし、そういった見学会みたいなのがあれば、賛成してくださる保護者の方も、なかなか難しいんですけれど、増えるんじゃないかなと思いました。

国立市にお金がどれくらいあるかわからないですが、府中市のようにはいかないと思うんですけれど、ほんとうに国立オリジナルで、今の給食でも全然うちの子供は満足しているんですけれども、もうちょっと皆さんが快く働ける環境で、皆さんのためにおいしい給食をつくっていただければなと思います。

【向井会長】 ありがとうございます。私も皆さんのご感想と全く同じふう感じておりまして、西村委員からあった、ここの給食センターがなくなってしまうのは、今まで市役所の隣にあって、ここで作っているんだなって子供たちが見学にも来ますし、わかっていたということで寂しいなというご感想だったんですが、五小はわかります。校庭に出ると、今日は和風かなとか、唐揚げばいにおいがするなとかいうので、子供たちは体育をやりながらとか、観察をしながら、あとは校舎の中に窓をあけていると入ってくるので、とても身近

に感じている給食センターですので、ほんとうに昭和の、私が子供時代の給食センターの施設で、調理員さんたちが苦勞しながら調理されているのを見てびっくりしていたところです。それでも、事故等もなく今まで来られたというのは、工夫と努力なのかなと思っています。

府中を見て、ほんとうに給食がおいしかったのはもちろんなんですけれども、食物アレルギーに対して、ああやって一人一人バッグがあってというところまでできているのはすごいなと思ひまして、何校か市内を回ってきている中で、食物アレルギーを持っているお子さんの保護者の方はとてもご苦勞されていて、毎回お弁当を持たせてきてくださる方もいらっしゃるれば、食べられるものをチョイスして、代替食を持たせてという保護者の方もいらっしゃるし、そういうところは有馬さんが言われたように、オンリーワンの給食センターを目指してほしいというところで一人一人に応じたというところでは、今後目指していくところだと思います。現状ではなかなか難しいと思いますが、スムーズに新給食センターへ移行ができると、子供たちにとってはとても大きなメリットがあるのかなと思っています。

それでは、皆様の貴重な意見やご感想、ありがとうございました。このような皆様からのご発言を踏まえて、事務局には新しい学校給食センターの整備について、業務に精勵していただきたいと思ひます。

本日の議題は全て終了いたしました。次回は令和2年6月25日木曜日、午後2時からとなりますので、よろしくお願ひいたします。今年度お会いする機会はこれにて最後かなと思ひます。

では、これで第6回学校給食センター運営審議会を終了いたします。ありがとうございました。

— 了 —